

旧小川家住宅玄関棟

市指定有形文化財第 10 号 平成 5 年 3 月 1 日指定

小平ふるさと村

〒187-0004 東京都小平市天神町 3-9-1

電話 042-345-8155

発行 平成 5 年 5 月 1 日



旧小川家住宅玄関棟「棟札(むなふだ)付」

この建物は、旧小川村及び小川新田村の開発事業の中心的役割をはたしてきた名主の小川家(現在の小平市小川町 1 丁目 2370 番地)に代々継承されてきたものです。

創建時の棟札によって、この建物が文化 2 年(1805 年) 3 月 13 日着工、同年 5 月 25 日の完成であることが明らかとなっています。

その後、明治 24 年(1891 年)に屋敷全体の老朽化が進んだため、大改修工事が行われたと言われていますが、その工事以前の屋敷の配置及び略平面、外観見取図などについては小川愛次郎氏が記憶をもとに作図したものが残されています。これは、不十分ながらも名主時代の小川家の屋敷構えを具体的に示す重要な資料となっています。石原憲治氏の調査報告書中に述べられているように(『小平郷土研究会会報』第 2 号)、屋敷構えは、長い廊下で幾棟もの建物を連結したもので、武家屋敷の配置を思わせ、恐らく建物も本格的な書院造りとなっていたと思われます。これらに加えて痕跡図及び部材調書に示す解体部材の痕跡などから表玄関の創建時の姿を復元してみると、正面及び裏側に大きな狐格子(きつねごうし)入りの破風(はふ)を切った茅葺(かやぶき)の入母屋屋根の建物であったことが推定されます。

旧所在地

小平市小川町 1 丁目 2370 番地

旧所有者

小川 誠 氏

構造形式

木造平家建 茅葺入母屋造り

規模

桁行 3.8 間 梁間 2.0 間
(6.98m) (3.64m)
式台付き

延床面積

36.99 m²

建築年代

文化 2 年(1805) 竣工 棟札

解体工事

昭和 51 年 5 月 30 日

復元工事

平成 3 年 5 月~4 年 3 月

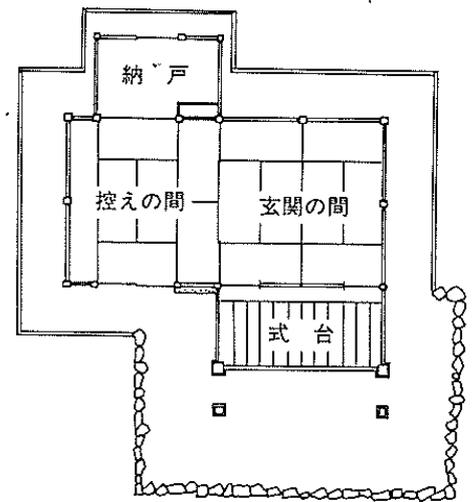
昭和 35 年（1960 年）には小川愛次郎氏によって屋根修理がなされ、瓦とトタンに葺き変えられていますが、解体部材の調査結果及び復元工事に際して仮組みを行い、詳細な調査を行った結果、千鳥破風（ちどりはふ）をはじめ小屋組材の大部分に当初材が残されており、創建時の屋根形状がほぼ明らかとなりました。

この玄関は主屋とは別棟として建てられ、主屋と廊下で接続しており、一般の名主宅で見られる六ツ間取り、式台、玄関屋敷の形式とは異なります。小川家の格式の高さから、このような形式が可能であったわけで、江戸時代後期における当家の実力を示しています。

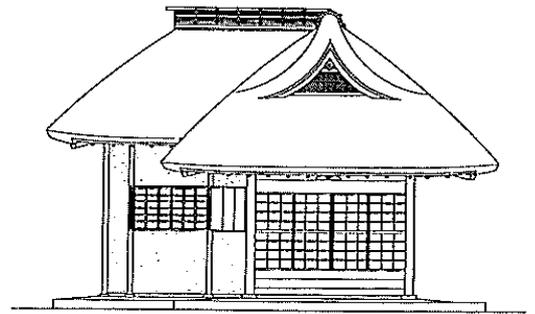


移築前

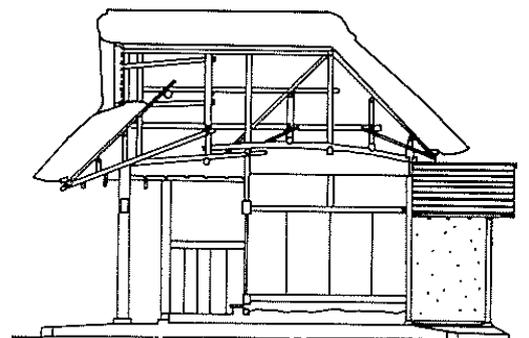
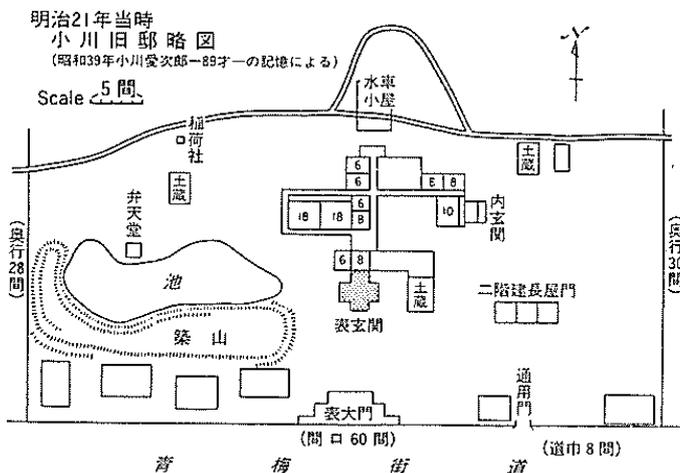
※ 狐格子……見付 2 ~ 3 cm 角の縦棧に横は縦棧と同じ見付きの貫を裏から小間返しに用いて正方形に組んだ格子。「木蓮格子」ともいう。



平面図



立面図



断面図